

GAKKAI NEWS 第3号

2011年10月4日発行

推薦図書

モーリス・ルブラン／訳・石川湧

『奇巖城』

創元推理文庫

—アルセーヌ・ルパン—この名前を聞いたことはありますか？むしろルパン三世の祖父と紹介したほうがわかる方が多いのかもしれない。(著作権的には違います。あくまで作中で匂わせているのみです。)彼は20世紀初頭、フランスの小説家モーリス・ルブランによって書かれた推理・冒険小説の主人公及びそのシリーズの総称です。彼は冒険家にして義賊、ある時は探偵で、別の時は多くの部下を束ねる泥棒組織のボスであったりします。今回、その中でも人気の高い「奇巖城」を紹介します。舞台はフランスのル・アーブル地方。そこでルパンはある古城に盗みに入りますが、そこでドジを踏んでしまいます。しかし、負傷した彼はある助けで逃げ切ります。まんまと逃げられてしまった警察は、今度はイギリスからある有名な探偵を呼び寄せます。さらにこの頃、舞台である古城に無名の天才学生が訪れます。彼によって古城の仕掛けは解かれ、この地方のどこかにマリーアントワネットが隠した莫大な遺産があることが判明します！ルパンはこの遺産を狙っていたのです！さあ！ルパンが遺産を盗むのが先か、天才学生が発見するのが先か！イギリスの探偵が迫っている中お互いに一步も譲らない戦いが展開されます！

(S・D)

M.ウェーバー／訳・尾高邦雄

『職業としての学問』

岩波書店ほか

学問自体は、古代ギリシャの自由七科(リベラルアーツ)、あるいはもっと古くから存在していたと考えられていますが、時を経るに従ってその内容は変化し、特に近代に入ってから、学問というものの考え方、あるいはそれを提供する教育の在り方が、前近代のそれとは大きく変わってきています。

これまで教育を受けてきた小学校(あるいは幼稚園)から今までの思い返していただくとお判りかと思いますが、現代の学校教育というものは、学生(生徒、または児童)の健全な成長を促進し、社会に出るために必要な知識や作法を習得させるための場となっています。日本の大学の場合、キャリア講座、資格助成等が前述に該当すると思えます。

ウェーバーは、19世紀後半～20世紀初頭のドイツ(プロイセン)の社会学者・経済学者ですが、彼が言うには、日本の大学において行われている上述のようなことは、本来の大学教育の意義には含まれていません。あくまで大学とは、事実を客観的に把握・判断する力を学生に身につけさせるところで、学問とは、(勇気ある)個人に世界を明瞭に認識する力を与えるだけのものなので、これからどう生きるかについて学問は沈黙しなければならない、と主張しています。

このことを踏まえると、TOEICやSPIのために真剣になる気が減退する人もいるかもしれませんが、あくまで1世紀前のことですからご参考程度に捉えられるのがよろしいかと思えます。

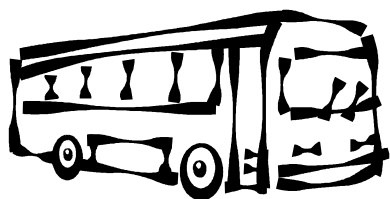
(H・O)

編集後記

—前号に続く、本についての短い考察—

本は、ご承知の通り、紙とインク(と接着剤等)によって出来ています。その本が現在の形態に近付いたのが、15世紀にドイツ人グーテンベルクが活版印刷を発明したことに由来することも、広く知られていることでしょう。最近、その本という形態が電子書籍に取って変わろうとしています。電子書籍は、離れたページを瞬時に比較したり、書き込みをしたりすることはできませんが、持ち運びが容易になり、ページが雨に濡れて破れたりふやけたりすることや、虫が喰わないように保管方法に気を付けるといった心配をする必要はありません。また、書き込みが出来ないといっても、教科書にせよ、小説にせよ、読みながら思ったことを書き込みながら読むという習慣が、若い世代を中心に無くなって来ていることを考えると、タッチパネルで操作することの不便を感じる人は、年々少なくなっていくかもしれません。しかし、そのように、ただ字面を追うだけでは、本に対する愛着は湧かないと思います。さすがに、夏目漱石の『三四郎』よろしく、図書館で貸し出されている本に書き込むのは感心しませんが、書店で購入した本に書き込みをしながら本を読むことで、私だけの本になるという意識が芽生えれば、紙とインクの本も捨てたものではなかろうと思うに違いないと私は考えるのですが、みなさんはいかがですか？

(H・O)



企画委員より

甲南大学経済学会では、今年も毎年恒例の社会見学を行います。

今回は、地元の地場産業に注目した【地域密着型フィールドワーク】をコンセプトに、播州地域の「ものづくり」を支える姫路へのフィールドワークを企画しています。

見学先は、【灘菊酒造・大阪ガス姫路ガスエネルギー館】です。

播州地域は、日本一の酒米「山田錦」や「兵庫夢錦」など酒造好適米を産し、市川や揖保川といった水に恵まれた土地柄のため古くから酒どころとして有名です。

明治43年創業の灘菊酒造もその一つで、古くから播州播磨の伝統地酒を酒造しています。昔ながらの酒蔵の^{たたず}佇まいを味わうことができます。

大阪ガス姫路ガスエネルギー館では、環境にやさしい天然ガスを始め、地球環境やエネルギーについて、見て・触れて・楽しく学ぶことができます。

また、昼食はホテル日航姫路のランチバイキングに行きます。

興味のある方は 5号館 5階経済コモンルームまでお越し下さい。

開催日：2011年11月24日(木)

募集人数：40名(先着順)

参加費：500円

申込締切：2011年10月17日(月)



これらは全て、甲南大学(岡本キャンパス)で撮った写真です。

どこで撮った写真か、わかりますか？



※撮影場所は次号、
お知らせします。

